

## 人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学甲状腺内分泌学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成29年11月 福島県立医科大学医学部甲状腺内分泌学講座 古屋文彦

【研究課題名】副腎腫瘍における手術適応症例の解析

【研究期間】

平成29年11月（承認日）～令和9年10月

【研究の意義・目的】

副腎腫瘍は超音波検査、CT/MRI検査、核医学検査に加え、PET-CT、PET-MRI検査などにより正確な診断が可能になりました。また、技術の進歩により低侵襲な内視鏡手術がより安全に行われるようになり、副腎腫瘍の手術症例数は増加しています。副腎皮質にできる腫瘍は様々です。良性腫瘍としては機能性副腎皮質腺腫（アルドステロン症、クッシング症候群、サブクリニカルクッシング症候群など）、非機能性副腎皮質腺腫、悪性腫瘍としては副腎皮質癌があります。一方、副腎髄質にできる腫瘍としては、良性の褐色細胞腫、神経鞘腫など、悪性の悪性褐色細胞腫などがあります。自立的なホルモン産生をする機能性副腎腫瘍は、良性であっても人体に与える影響が大きく適切な治療を必要としますが、病型が多岐にわたることもあり、診断、治療に議論が残る分野でもあります。一方、悪性褐色細胞腫、副腎皮質癌などの悪性疾患については、その診断、治療がまだ確立されていない部分も多い疾患です。副腎疾患は更なる進歩が望まれている分野であると言えます。

今回の検討は副腎腫瘍診療において、術前評価、術式の検討、術後の評価とその後の加療を検討し、それらを確立することを目標としています。

【研究の対象となる方】

1. 研究開始前に本学附属病院に受診・入院した副腎腫瘍を持つ患者さん
2. 研究期間内に本学附属病院に受診・入院し、副腎腫瘍の診断、手術を受けた患者さんで、本研究参加に同意した方

※上記1の方については、転院、転居などの理由で同意取得が困難であるため、研究内容をこの情報公開文書で公開し、研究への参加を拒否できる機会を保障する方法をとっています。

【研究の方法】

対象患者さんの臨床情報と臨床病理学的因子を後方視的に統計学的に解析します。試料は手術または生検で採取された検体の残余組織を使用するため、新たに切除や検査を行う必要はありません。その試料を用いて、腫瘍組織および非腫瘍組織の病理学的因子を解析します。病理診断はHE染色を用いた組織診断の他、MIB1染色やChromogranin染色など病理診断に一般的に用いられる免疫染色による診断も含まれます。臨床情報としては年齢、性別、一般血液検査とその推移、静脈サンプリングデータ、尿検査データ、画像検査、手術に係わるデータ、薬物治療、放射線治療、予後などが含まれます。

【研究組織】

研究責任者 甲状腺内分泌学講座 教授 古屋文彦  
研究分担者 甲状腺内分泌学講座 博士研究員 岩館学

甲状腺内分泌学講座	講師	鈴木聡
甲状腺内分泌学講座	学内講師	水沼廣
甲状腺内分泌学講座	学内講師	松本佳子
甲状腺内分泌学講座	専攻医	塩功貴
甲状腺治療学講座	教授	鈴木眞一

**【本研究に関する問い合わせ先】**

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学医学部甲状腺内分泌学講座 担当 鈴木 聡  
電話:024-547-1284 FAX: 024-547-1916  
E-mail:dte@fmu.ac.jp

**【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】**

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1  
公立大学法人福島県立医科大学医学部甲状腺内分泌学講座 担当 鈴木 聡  
電話:024-547-1284 FAX: 024-547-1916  
E-mail:dte@fmu.ac.jp